

学校法人東海学園

第Ⅰ期 総合計画 2025～2029 概要版

学校法人東海学園

- ◆東海学園大学
- ◆東海学園高等学校
- ◆東海中学校・東海高等学校

学校法人東海学園 長期構想2040

明治21年、浄土宗の僧侶養成機関として、東京に本校が置かれ、全国8か所に支校が置かれました。その支校のひとつであった東海学園は一世紀余を経た現在、東海中学校、東海高等学校、東海学園高等学校、そして東海学園大学と、時代の流れを捉えながら総合学園へと発展してきました。

このように、浄土宗の僧侶養成機関として始まった東海学園は、仏教をその精神的な支柱としています。仏教はお釈迦様から法然上人を介して東海学園へとつながっていますが、この流れは、さらにそれぞれの親から子へとつながっており、この時間的な縦の糸は「縁起」という言葉で表す事ができます。

また、この「縁起」という言葉には、現在あるものや人々との支え合いという空間的に広がる横の糸としての意味もあります。このような縁起の思想からは、繋がり合い支え合い生かし合うこと、つまり慈悲や平等、報恩や感謝という考え方が導かれます。

東海学園が一貫して掲げている建学の精神は、『勤儉誠実』という言葉で表されますが、この意味するところは、自分という存在が縦の糸と横の糸の交点であることを自覚し、そのことを解き明かしてくださった仏の御恩に感謝して、個としての自分のためのみならず、すべてのつながりに感謝して「打ち込んで生きる」ということです。

また、勤儉誠実の精神の背景にある縁起の考え方をわかりやすく表現したものに『共生^{ともいき}』という言葉があります。これは本学園の学祖の一人である椎尾辨匡が大正期に興した「共生運動」に由来する言葉で、縁起の考え方を、「すべてのいのちが縦横につながり、生き生かされている」と、わかりやすく表現したものであり、この精神は「こころ生き、身生き、事生き、物も生き、人みな生きる、共生きの家」という学祖の歌によく表されています。

このような建学の精神と教育理念を掲げて100年を超える歴史を刻み、多くの卒業生を送り出してきた学園も、他の教育機関同様、未曾有の経済・社会の変化に直面しています。また、長期構想の目標年度である2040年は、今年学園に入学した学生・生徒が20歳代後半から30歳代前半という、社会における若手として最も創造力が求められる時期に差し掛かります。

わたくしたち東海学園は、新たな価値の創造をもって激動の時代に対応し、平和で豊かな社会の実現を目指して「学校法人東海学園長期構想2040」を策定しました。

理事長 豊岡 瞭尔

建学の精神と教育理念

建学の精神

「勤儉誠実」

自分という存在が縦の糸と横の糸の交点

個としての自分のためのみならず、すべてのつながりに感謝して「打ち込んで生きる」

教育理念

ともいき

「共生」

「ともいき」とは、「人は皆、周囲の人々や社会、自然環境に生かされ、生きていることを心に留め、感謝し、また 自分も精一杯、いきいきと生きる」こと

「こころ生き、身生き、事生き、物も生き、人みな生きる、共生きの家」

椎尾 辨匡



東海学園大学



東海学園高等学校



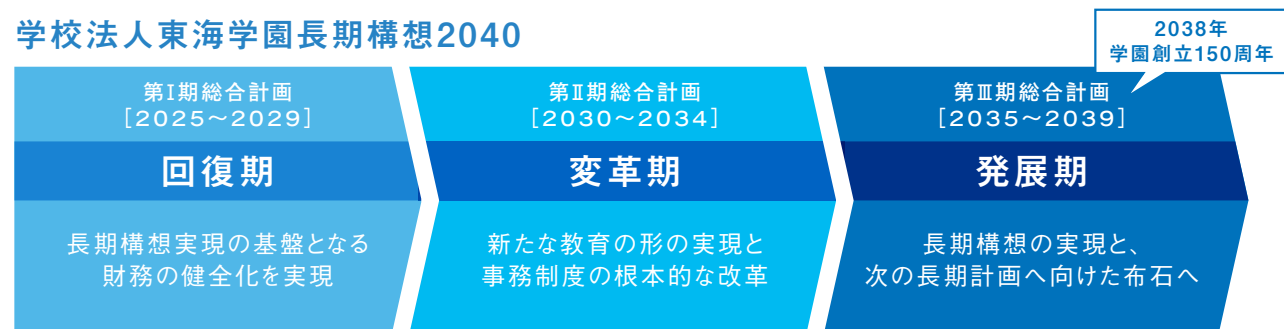
東海中学校
東海高等学校

計画概要

1 計画の全体像

学校法人東海学園総合計画は、2039年度を最終年度とする長期構想「学校法人東海学園長期構想2040」を達成するための中期計画で、第Ⅰ期から第Ⅲ期までの3タームで構成されています。それぞれのタームは、私立学校法第四十五条の二第2項に定める「事業に関する中期的な計画」として位置づけられるとともに、2025年度から2029年度までの最初の5年間は、第Ⅱ期以降で予定される変革を実施するための足掛かりとなる重要な期間になります。

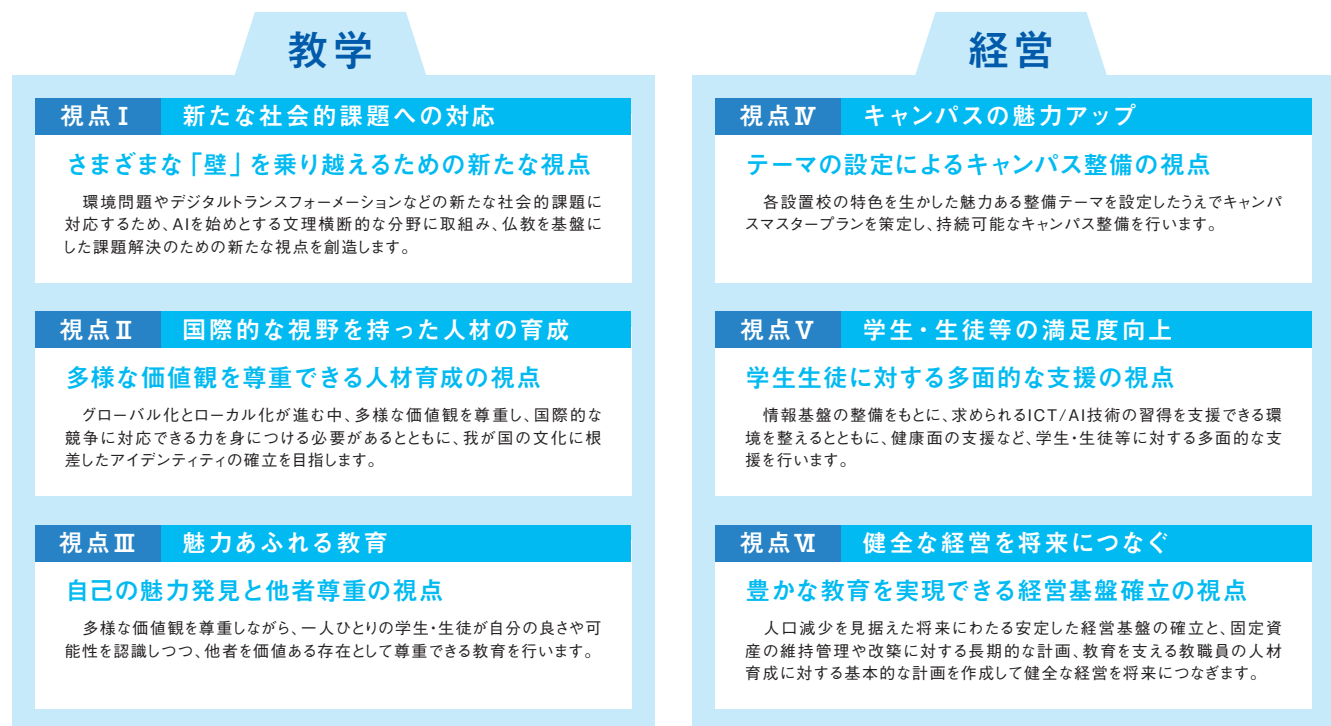
学校法人東海学園長期構想2040



2 学園の飛躍に向けた6つの視点

基本理念「勤儉誠実」と「共生」

東海学園は、浄土宗の僧侶養成機関として始まり、建学の精神である「勤儉誠実」と、教育理念である「共生（ともいき）」を柱として、学園各校が有機的に連携する新たな姿を目指します。



3 従前の計画との関係

大学については2015年度から第1次中期経営計画をスタートさせ、2020年度からは第1次中期経営計画のビジョンを踏襲しつつ、第2次中期経営計画を策定して実施しており、この第2次中期経営計画では、6つのプロジェクトにもとづく計画を策定し、アクションプランを設定して進行管理を行っています。

この計画の財務面を担保するのが中期財務計画であり、これは大学と中等教育を含めた、おおまかな財務計画となっており、現状ではこれをもとに進行管理を行っています。

また、施設設備に関する改築・更新計画については、おもに図上調査にもとづく2023年度から2032年度までの概要計画がありましたが、具体的な整備計画としては2023年度及び2024年度の2カ年を対象とするのみで、その後の期間については主に図面上から分かる範囲での大まかなLCMに関する計画となっています。

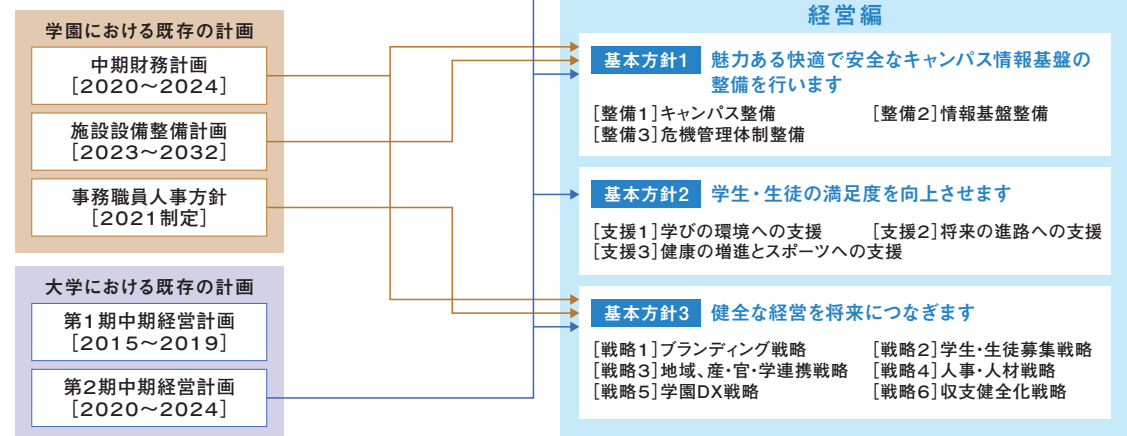
なお、人事等の方針としては、大学と中等教育の事務職員について、2021年度に作成されています。

今回の総合計画は、大学における第2次中期経営計画を発展させる形で、中等教育を含めた横断的な計画としました。

学校法人東海学園長期構想2040

長期構想の視点による整理

教学1	新たな社会的課題への対応
教学2	国際的な視野を持った人材の育成
教学3	魅力あふれる教育
経営1	キャンパスの魅力アップ
経営2	学生・生徒等の満足度向上
経営3	健全な経営を将来につなぐ



4 第Ⅰ期総合計画におけるポイント

財務の健全化が中心となる第Ⅰ期総合計画期間においては、効率化などによる事業費の圧縮が中心となりますが、一方で、他学校法人等との差別化は必須であり、今回の計画では情報基盤の整備に関する施策について新規の投資を構え、AIやICTに関する先進的な教育を可能にする環境を整えると同時に、近年多くの事例が報告されているDDoSやマルウェアによる攻撃などのセキュリティインシデントに対して、学園全体で対応できる体制を整備・構築します。

また、老朽化の著しい各キャンパスについては、これを安全で魅力的なものに変えるための「東海学園キャンパスマスタープラン」を策定し、学生・生徒の満足度の高い教育環境の実現に向けて取り組みます。

一方、これらの施策を支える経営基盤については、若年人口の減少や急激な経営環境の変化などが予測されることから、財務的なレジリエンスを高めることに重点を置き、教職員の満足度向上などエンゲージメントの向上を前提に、人事・給与制度について改正の検討に入り、期間中を目途に新たな制度を導入します。

東海学園第Ⅰ期総合計画

計画期間：2025年度～2029年度

- 全体
- 東海学園大学
- 東海学園高等学校
- 東海中学校・東海高等学校

2029年度までに
達成する目標(KGI)

- 学生・生徒の満足度 …………… 満足度85%相当以上
- 教職員職場推奨度指標の改善人数割合 …………… 50%以上
- 経営基盤確立 ①経常収支差額比率 …………… 3.3%以上
②内部留保資産比率 …………… 13.1%以上

教学編

東海学園大学

◆教育研究の質保証

- 3つのポリシーに基づく体系的で組織的な教育展開
- 内部質保証の仕組みの整備
- 研究の質向上・教員の教育研究活動の評価

◆魅力ある全学教育

- 文理横断的なカリキュラム構築等、多様で柔軟な全学教育の展開
- 建学の精神・教育理念の具現化

◆魅力的な専門教育の提供

- 社会的ニーズを踏まえた学部学科再編
- 学生の成長実感に繋がるアクティブラーニングの推進
- 地域・社会連携活性化による地域に根差した人材の育成

◆ゼミ教育の更なる強化・充実

- 学生の成長実感の場としてのゼミ教育の更なる強化・充実

◆免許・資格取得支援強化

- 免許・資格取得の全面的支援体制の構築
- 養成校となっている免許・資格の取得支援のための取組み

◆データサイエンス/AI教育

- リテラシーレベルの数理・データサイエンス/AI教育の推進、DX人材の養成
- ICT活用能力醸成のため多様なメディアやBYOD(Bring Your Own Device)の活用

東海学園高等学校

◆教育理念「共生」の実践

- 「共生(ともいき)」のもと生きる力・人間教育に重点をおき、様々な宗教授業や行事を通してしなやかな知性と豊かな感性を備えた人間を育成

◆グランドデザインによる教育

- 「東海学園高等学校グランドデザイン」を基に、項目に依拠した多様な教育活動を充実させるため、授業研究や満足度調査等を実施、「共創(関係者が協働でビジョンをつくること)」を学校全体で実践し、生徒の力を醸成

◆東海学園大学との連携

- 同じキャンパスにある大学との連携強化を通し「高大7年制の教育」を実現
- 交流・連携ネットワークの構築
 - 出前講座・実験実習等の実施
 - 大学教職員・OBGによるガイダンス・説明会の開催
 - 課外活動等分野での相互交流
 - 学部の特性を活かした高校生への講習・指導
 - 単位認定先行型授業の検討

東海中学校・東海高等学校

◆宗教情操教育

- 共に生かし生かされ合う「共生(きょうせい・ともいき)」の心を持った人間に成長するための宗教情操教育

◆組織間連携による教育状況対応

- 学習指導部会、中学習指導部連携会議、教育懇談会等を有効に活用した、教員が積極的に取り組む体制

◆教育水準の維持

- 変化の激しい時代に即応すべく、中高一貫カリキュラムの厳選、自作の補助教材の充実などを図り、高い教育水準を維持

◆成長段階ごとの指導

- 中1から始まる6年間で成長の段階ごとに指導の重点を明確にして、ゆとりを持って知育・徳育・体育の揃った教育を実践

◆総合学習の実施

- 「総合的な学習の時間」の導入を積極的に活用し、自ら学び、考え、行動する力を育成するため、多様なテーマでの総合学習を実施

◆諸活動を通してたくましさを涵養

- 多種多様な自主活動や豊富でハイレベルな諸行事を実施し、経験知の取得と個人や集団で主体的に取り組むたくましさを涵養

経営編

方針1

魅力あるキャンパス整備

整備1

キャンパス整備

- 魅力ある安全なキャンパス実現へ向けたマスタープランの策定・実施
- ②当面の老朽化対策

整備2

情報基盤整備

- ①情報セキュリティマネジメント体制の構築
- ②情報セキュリティ教育の充実
- ③ネットワーク整備
- ④サーバー群整備(大学)
- ⑤PCのBYOD化(大学)
- ⑥管理体制の整備

整備3

危機管理体制の整備

- ①既存マニュアルの見直し
- ②計画的な耐震改修
- ③BCPの策定

方針2

学生・生徒の満足度向上

支援1

学びの環境への支援

- ①学修支援の充実
- ②経済的支援の充実
- ③生活支援の充実
- ④課外活動等支援の充実

- ①学習支援の充実
- ②環境への支援
- ③各種検定受検支援

- ①生徒との信頼関係の構築
- ②安心・安全な校内環境構築

支援2

将来の進路への支援

- ①職業人としての意識の醸成
- ②きめ細かな個別支援

- ①個々の希望に即した、きめ細かい進路指導
- ②進路意識向上へ向けた施策の推進

自己実現へのサポート

支援3

健康の増進とスポーツへの支援

- ①心身の健康支援充実
- ②強化指定クラブの活性化支援
- ③安全なスポーツ環境の構築

- ①健康増進意識の向上
- ②体育施設・設備の充実

- ①カウンセラーによる心のケアの実施
- ②各種連携した指導体制の維持
- ③相談体制の維持

方針3

健全な経営を将来に

戦略1

ブランディング戦略

- ①本学のブランド軸の策定
- ②大学・イメージ認識度向上
- ③在学生・保護者・愛校心向上へ向けた取組み

- ①「共生」・グランドデザインに基づいた教育の実践
- ②サッカー強豪校としての地位確保
- ③生徒が自ら取り組む学校行事を高校の特色として訴求

- ①同窓会との多種連携
- ②教育理念に基づく教育実践
- ③高い教育力の維持と自主活動の活性化

戦略2

学生・生徒募集戦略

- ①ターゲット毎のニーズを把握したアプローチ検討
- ②ブランディング事業と連携した効果的な広報展開
- ③学生の成長に繋がるオープンキャンパス運営の検討

- ①近隣地域からの入学者の安定確保
- ②中学生へ高校の魅力の積極的PR
- ③総合計画第Ⅱ期以降の人口減少を見越した対応

- ①受験層へ本校の理念訴求
- ②イベント参加者数の維持
- ③高校からの入学者の適正数維持

戦略3

地域・産・官・学連携戦略

- ①地域公開講座の提供
- ②地域・産官学活動の推進
- ③公式HPでの情報発信強化

- ①ボランティア生徒派遣
- ②プロギングの継続実施
- ③インターンシップの実施

- 研究&仕事紹介講座・創立記念祭等の実施

戦略4

人事・人材戦略

- ①エンゲージメント経営移行
- ②職員人材育成制度の改正
- ③人事・給与制度の改正

戦略5

学園DX戦略

- ①業務の棚卸し/業務量調査
- ②事務組織体制の整備
- ③基幹システム構築/共通データ基盤の構築
- ④生成AI等の活用

戦略6

収支健全化戦略

- ①財務計画
- ②寄付金戦略
- ③学納金等の改定検討等

高大連携

1.東海学園大学／東海学園高等学校

- a.高校・大学教員の交流・連携ネットワークの構築
- b.出前講座・実験実習等の実施
- c.大学教職員・OBGによるガイダンス・説明会
- d.課外活動等分野での相互交流
- e.学部の特性を活かした高校生への講習・指導
- f.単位認定先行型授業の検討

2.東海学園大学／東海学園高等学校／東海中学校・東海高等学校

- a.図書館システム統合等、学園全体での対応